

鶴崎駅周辺整備基本構想

(案)

【概要版】

令和 5 年 1 月

大分市

序章

1. 基本構想の目的

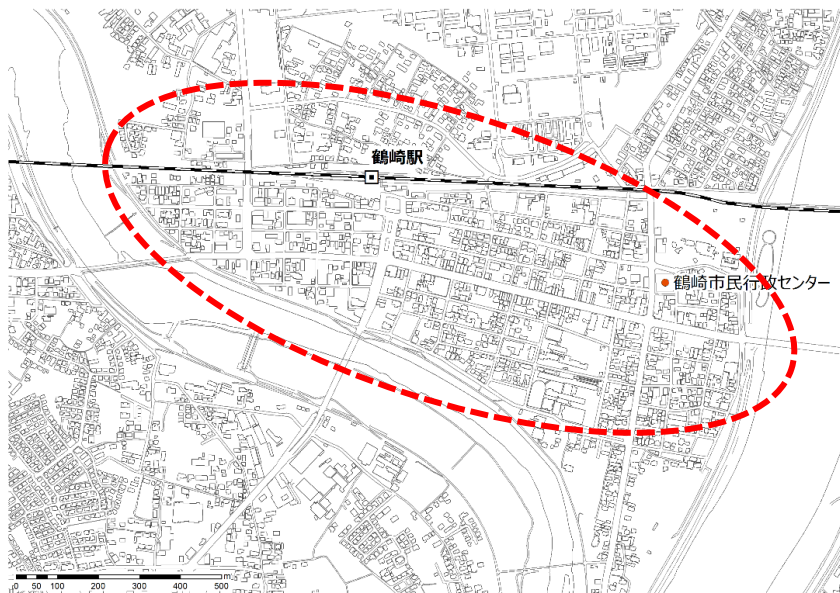
本市では『大分市まちづくり自治基本条例』において、市民の幸せな暮らしの実現を目指すために市民主体によるまちづくりを行うことを自治の基本理念としています。都市づくりは、そこに住む人、そこで働く人のためのものです。自らの生活を豊かにする都市づくりは、自らが考え、行動することが重要です。

「鶴崎駅周辺整備基本構想」は、人口減少や少子高齢化に伴う、まちの活力や賑わいの低下や、国道197号志村～乙津間の4車線化に向けた拡幅工事の進捗などの環境の変化を踏まえ、市民や利用者のニーズに的確に対応し、本地区の拠点整備の方向性や方針等を市民、行政、まちづくりの専門家等で共有し、市民が主役となる都市づくりを官民協働で整備の推進を図っていくことを目的として策定するものです。

2. 対象区域：鶴崎駅周辺地区（JR 鶴崎駅周辺及び鶴崎市民行政センター周辺）

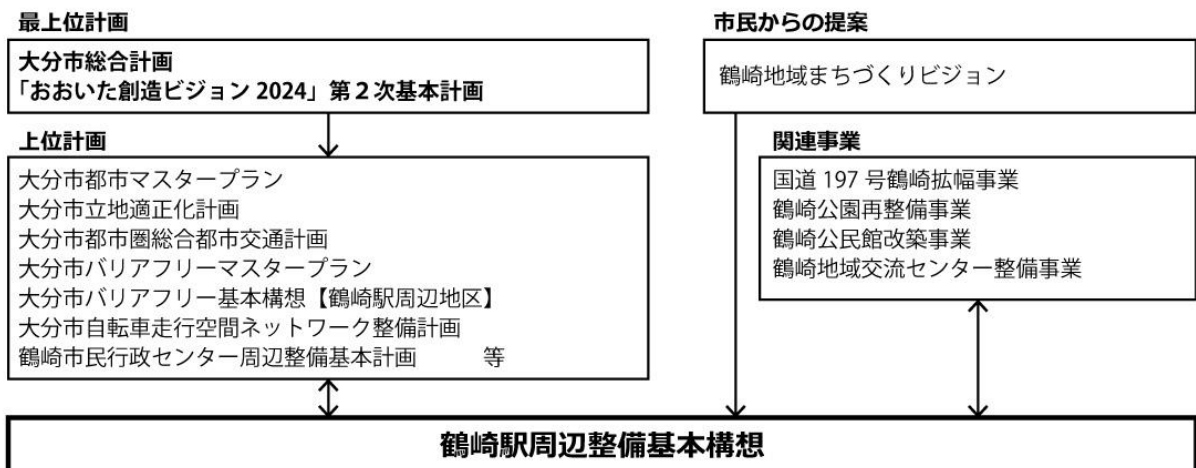
基本構想の対象範囲は、JR 鶴崎駅及び鶴崎市民行政センターを中心とした、国道197号沿道を含む下記の範囲です。

対象区域



第1章 上位・関連計画及び関連事業

基本構想と主な上位計画や関連事業等の関係性は以下の通りです。



第2章 鶴崎駅周辺の現況

1. 人口動向

- 鶴崎駅周辺地区が含まれる鶴崎校区の2019年人口は、7,562人で近年減少傾向にあります。
- 年少人口割合は10.2%、老年人口割合は30.6%で、少子高齢化が進行しています。

2. 鉄道の利用状況

- JR 鶴崎駅の、令和元年度における乗車人員は70万1530人、日平均乗車人員は1,922人です。
- 乗車人員の推移を見ると、平成27年度から減少傾向にあります。

3. 交通環境

- 国道197号では、「中鶴崎2丁目交差点」と「鶴崎駅入口交差点」が渋滞箇所となっています。
- JR 鶴崎駅を利用する方の48%は、通勤・通学などで自転車を利用しています。

4. 土地利用の状況

- 低・未利用地が多く存在しており、「都市のスポンジ化」が進行しています。

5. 建物の状況

- 国道197号沿道には、商店街が形成されており、商業施設や業務施設が建ち並んでいます。
- 対象区域全体として土地の高度利用が進んでいない状況にあります。

6. 都市機能の立地状況

- 商業施設や医療施設、教育施設、子育て支援施設等の多様な都市機能が立地しています。また、鶴崎市民行政センターや鶴崎公民館、消防署、警察署などの公共施設も充実しています。

7. 歴史文化資源の状況

- 歴史文化資源が多数残されており、往時の面影を感じることができます。

8. 法規制の状況

- JR 鶴崎駅南側を中心に商業地域が指定されており、その他は主に第1種住居地域が指定されています。

9. ハザードエリアの状況

- 地区内のほぼ全域で洪水時には3m～5mの浸水が想定されています。
- 地区内のほぼ全域が地震による津波の予想到達ラインに含まれています。

10. 市民意向の把握

鶴崎地区住民・高校生（大分鶴崎高校、鶴崎工業高校）によるワークショップや子育て世代（1歳6か月、3歳児童健康診査受診者の保護者および鶴崎こどもルーム来訪者）へのアンケートでは、主に以下のような意見が見られました。

- 商業的な賑わいを呼び込むような整備が求められています。
- 自転車、バス、タクシー、自家用車との接続が行いやすい交通結節機能が求められています。
- 公園や広場などの施設整備等が求められています。
- 交通渋滞の解消が求められています。また、駐車場の確保に対する関心が高い傾向です。
- 安心・安全に移動できる歩道や自転車道などの整備が求められています。
- 川沿いの自然環境を活かした整備に関心が高くあります。
- 歴史資源を活用した都市づくりやイベントの提案がありました。

第3章 課題の整理

上位・関連計画、関連事業の進捗状況、市民意向を含む鶴崎駅周辺の現況を踏まえ、本地区の整備に向けた課題を以下に整理します。

1. JR 鶴崎駅周辺に関する課題

課題①：交通結節機能の改善

課題②：駅周辺の環境改善

2. 鶴崎支所周辺に関する課題

課題①：鶴崎支所周辺の環境改善

3. 交通ネットワークに関する課題

課題①：自動車の渋滞緩和

課題②：自転車の利用環境の改善

4. 歴史文化・自然環境に関する課題

課題①：現状のニーズにあった公園施設の更新

課題②：乙津川や大野川等の河川敷の有効活用

課題③：鶴崎地区の歴史文化資源の有効活用

課題④：歴史文化資源や街区公園等をつなぐ回遊環境の充実

5. 防災まちづくりに関する課題

課題①：洪水・津波等の災害への対応

鶴崎駅周辺の課題図



鶴崎駅周辺の課題図<総括>

1. JR鶴崎駅周辺に関する課題

課題①:交通結節機能の改善

- J R 鶴崎駅の駅前広場には、タクシー乗降場や駅前駐輪場及び一般車用駐車場がありますが、路線バスが停車できるスペースがありません。
- 歩道幅員が狭く、段差があるなどバリアフリー対策が十分ではありません。
- 駅のロータリーが小さいのでバスが入れず、鉄道から他の公共交通への乗継がしづらい状況となっています。また、送迎スペースや駐車場等が少なく、自動車への乗継がしづらい状況となっています。
- J R 鶴崎駅から（裏）鶴崎駅バス停（県道鶴崎停車場線）まで約150m、鶴崎駅バス停（国道197号）まで約300m離れており、利用しにくい状況となっています。

課題②:駅周辺の環境改善

- 県道鶴崎停車場線は中央に緑地帯のある駅前的大通りですが、シンボル軸となる沿道景観が形成されていません。
- 駅前に買い物できる場所が少なく、人が集まれる空間が少なくなっています。

2. 鶴崎支所周辺に関する課題

課題①:鶴崎支所周辺の環境改善

- 鶴崎市民行政センターは、こどもルームや図書室などがあり、多くの人々が訪れる施設となっているとともに、公民館や鶴崎公園の改修等も進められ、拠点として整備されていますが、人の流れがセンター内で完結しており、周辺への回遊性が乏しい状況となっています。

3. 交通ネットワークに関する課題

課題①:自動車の渋滞緩和

- 国道197号は交通量が多く、対象地区東側の鶴崎橋付近が慢性的に渋滞しています。また、鶴崎駅入口交差点と中鶴崎2丁目交差点は、主要な渋滞箇所となっています。
- JR日豊本線を横断できるのは4箇所に限られており、平面交差（踏切）の箇所や幅員が狭い箇所もあり、結果として市街地が南北に分断されています。
- 市道鶴崎三佐線（都市計画道路 寺司三佐線）の平面交差（踏切）のため朝夕の渋滞が発生しています。

課題②:自転車の利用環境の改善

- JR鶴崎駅を利用する方の多くは、通勤・通学などで自転車を利用されています。駅周辺には、2箇所（自転車収容台数約700台）に駐輪場を整備していますが、景観的・動線的な問題があり、快適に利用しにくい状態です。
- J R 鶴崎駅では自転車での利用が多くなっていますが、周辺の道路には自転車専用レーンなどの自転車走行空間が確保されていません。

4. 歴史文化・自然環境に関する課題

課題①:現状のニーズにあった公園施設の更新

- 子育て世代、高齢者、高校生等の利用ニーズにあていない街区公園が存在します。
- 木々が生い茂り、見通しが悪い街区公園も存在します。

課題②:乙津川や大野川などの河川敷の有効活用

- 清掃、草刈、歩道などウォーキングやサイクリング等を促す環境が十分に整っていません。

課題③:鶴崎地区の歴史文化資源の有効活用

- 鶴崎踊の解説板やモニュメント、社寺や毛利空桑記念館など、鶴崎地区の歴史文化を伝える資源が、来訪者が気づかれにくい状態です。
- 歴史等の拠点となる施設がなく、地域の情報発信がしづらい状況になっています。
- 駐車場が少ないなど、観光客等が来訪しづらい状況になっています。
- 「空桑思索の道」の歩行者通行空間には、良好な沿道景観が形成されていません。
- 古くから伝わる行事やイベントについて、将来にわたって地域の歴史や文化が継承されていくか懸念されています。

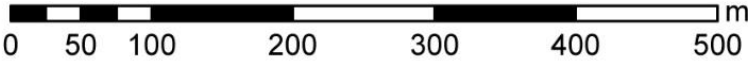
課題④:歴史文化資源や街区公園等をつなぐ回遊環境の充実

- JR鶴崎駅から鶴崎市民行政センターと、歴史文化資源や鶴崎公園等をつなぐ道路には歩道がないところが多く、街灯や休憩できるベンチも少ないなど、回遊しやすい歩行空間が十分に整っていません。

5. 防災まちづくりに関する課題

課題①:洪水・津波等の災害への対応

- 対象地区のほぼ全域が浸水想定区域に含まれており、洪水時には大半のエリアで3～5mの浸水が想定されています。
- 地区内には、国道197号沿道をはじめ、津波避難ビルに指定される建物が多くあります。南東部を除くエリアは、別府湾を想定震源とする地震による津波の予想到達ラインに含まれています。また、西端部分や鶴崎公園の一部は、南海トラフを想定震源とする地震の津波浸水想定区域に含まれています。
- 更なる災害発生時の避難場所の確保や情報周知の徹底、避難訓練等の定期的な実施が求められています。



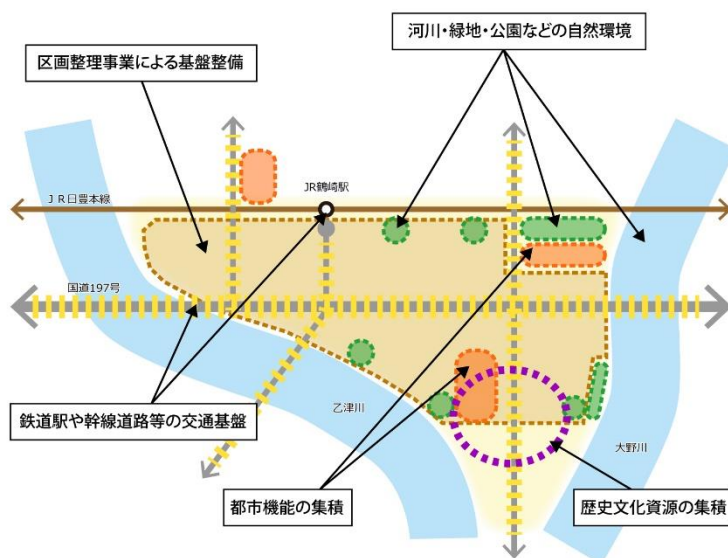
- 公園・緑地施設
- 歴史・文化施設

第4章 鶴崎駅周辺地区の将来像

1. 鶴崎駅周辺地区の魅力

本地区は、大野川、乙津川に隣接し、古くから瀬戸内海航路の拠点として発展しました。地区内には、豊かな歴史を背景とした歴史文化資源や、伝統行事が脈々と受け継がれています。

また、現在では区画整理事業による充実した都市基盤を背景に、大分市中心市街地に次ぐ中枢的な商業・業務地区を形成しており、鉄道駅や幹線道路などの交通基盤、公共機関の窓口や子育て支援施設、医療施設、公園などの生活関連施設が立地し、高い生活利便性をもつ地区となっています。



2. 鶴崎駅周辺地区の将来像

本地区では、豊かな歴史と自然環境、そして既存の都市基盤を最大限に生かしながら、課題に対応した適切なリニューアルを進めることで、次世代を担う子どもたちやその親世代を含む多世代が豊かに暮らしていくためのまちを目指します。

このようなことから本地区は、「伝統と文化を感じる多世代のための暮らしの拠点」をまちの将来像とします。

【鶴崎駅周辺地区の魅力】

- 区画整理事業による都市基盤の充実
- 鉄道駅や幹線道路などの交通基盤の存在
- 生活に関する多様な都市機能の集積
- 河川・緑地・公園などの豊かな自然環境
- 歴史文化資源や伝統行事の存在



【鶴崎駅周辺地区の課題】

- 駅周辺の魅力や賑わいの低下
- 慢性的な交通渋滞の発生
- 市街地の回遊性の低下
- 災害への対応
- 都市基盤のニーズとの乖離

時代のニーズに沿った都市基盤の適切なリニューアル

伝統と文化を感じる多世代のための暮らしの拠点

第5章 都市づくり方針

鶴崎駅周辺地区の将来像を実現していくための4つの方針を設定します。

1. JR 鶴崎駅や鶴崎市民行政センターを核とした住環境の高質化

- (1) 鶴崎駅前拠点の魅力の向上
- (2) 鶴崎駅前軸の景観形成と活用
- (3) 鶴崎コミュニティ拠点の機能の向上
- (4) 鶴崎コミュニティ軸による拠点間の回遊性の向上

2. 円滑な交通ネットワークの形成

- (1) 広域連携軸による広域交通の円滑化
- (2) 地域連携軸による地区内のアクセス性の向上

3. 鶴崎の伝統・文化・緑を「まもり」「つなげ」「いかす」ネットワーク形成

- (1) 鶴崎歴史文化拠点の魅力の向上
- (2) 鶴崎歴史とみどりのネットワークの形成

4. 安心・安全に暮らせる防災都市づくり

- (1) 防災面を考慮した都市づくりの推進

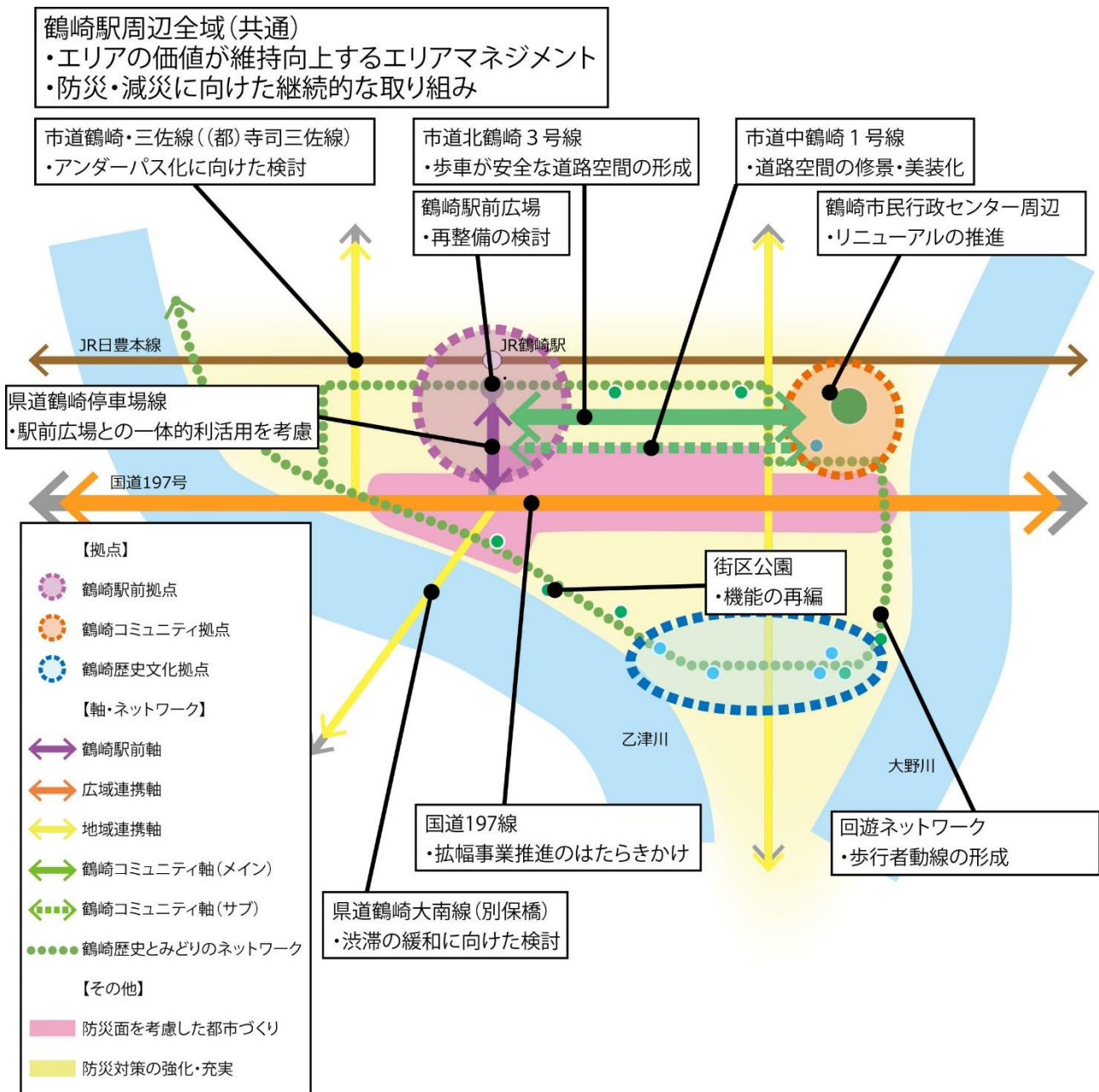
都市づくり方針図



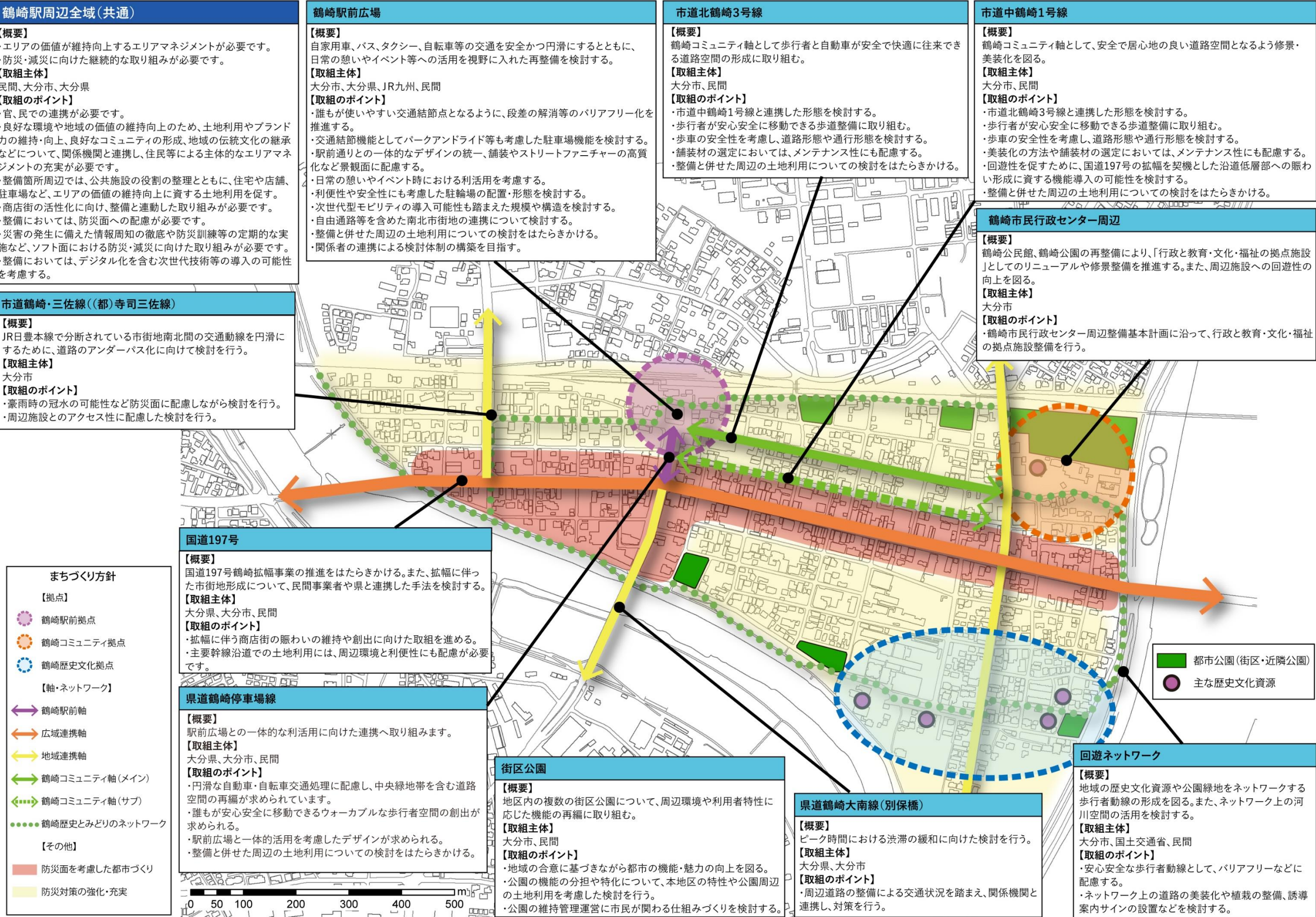
第6章 方針実現に向けた取組

都市づくり方針に沿って今後展開していく取組のイメージを示します。

都市づくり方針と取組のイメージ図



都市づくり方針と取組のイメージ図〈詳細〉



各取組の実施時期のイメージ

	取組内容	取組時期		
		短期	中期	長期
鶴崎駅周辺全域(共通)	鶴崎駅周辺全域	■		
鶴崎駅前拠点	鶴崎駅前広場	■		
	県道鶴崎停車場線	■		
鶴崎コミュニティ拠点	鶴崎市民行政センター周辺	■		
鶴崎コミュニティ軸	市道北鶴崎3号線	■		
	市道中鶴崎1号線	■		
広域連携軸	国道197号	■		
地域連携軸	市道鶴崎・三佐線 ((都)寺司三佐線)			■
	県道鶴崎大南線 (別保橋)			■
鶴崎歴史と みどりのネットワーク	回遊ネットワーク	■		
	街区公園	■		

第7章 取組実現に向けた課題

第6章で示した様々な取組を実現していくには多くの課題があります。また、将来像実現のためにはハード整備だけでなく、ソフト対策も行っていく必要があります。

1. ハード整備における主な課題

- ・ 民間活力の導入が必要です。
- ・ 今後の人口減少などを踏まえて、過剰整備とならないように適切な規模、仕様、費用対効果を十分に検討することが必要です。
- ・ 整備後の維持管理を考慮し、メンテナンス性を踏まえた整備を行うことが必要です。
- ・ 補助金の活用やクラウドファンディングの活用など予算面における検討が必要です。
- ・ 整備を行うための敷地の確保など関係権利者との丁寧な合意形成が必要です。

2. ソフト対策における主な課題

- ・ 民間の取組との連携が必要です。
- ・ 公共施設等の整備に伴う商業施設や住宅の立地等を促進するための取組が必要です。
- ・ 公共施設等を活用するため、イベント等の実施における公共空間活用方法や体制等の仕組みの検討が必要です。
- ・ 公共施設等の整備の検討には、周辺の民地の土地利用の可能性も含めた検討が必要です。